
C | O | N | T | E | N | T | S |

- 【1】書籍のご案内
- 【2】セミナーのご案内
- 【3】職場を考える(35)
- 【4】生き生き施設づくり(27)
- 【5】信頼のある職場(35)
- 【6】少年硬式野球チームのコーチと目標管理(45)
- 【7】中小企業とIoT
- 【8】雀のえづけⅡ

平素はお世話になりありがとうございます。
当センターで2カ月に1回のペースで発行するメールマガジンをお送りします。
すごいことが書いてあるわけでもなく、無事をお知らせする程度のメールマガジンです。
気楽にご笑覧いただき、今後とものご厚誼をいただければ幸いです。

中嶋哲夫

【1】書籍のご案内

当センター代表 中嶋哲夫の書籍「奇跡の企業組合 生業(なりわい)の里」(博進堂刊、定価税別900円)が村上市の地元紙である村上新聞12月11日号で紹介されました。年明けには新潟日報に書評が掲載される予定です。地元の方々に生業(なりわい)の里の存在を知っていただけることに繋がりそうです。

【2】セミナーのご案内

第40回目標管理推進者養成研修が無事に終了しました。2017年も2ステップに分けて開催を予定しています。日程が決まり次第、お知らせします。

【3】職場を考える(35)

【 職場と競争 】

自由主義経済は、競争を通じて最も効率的な方法を見つけ出す優れたメカニズムだと言われています。たしかに、市場における競争は、生活の進歩をもたらしていると感じます。しかし、その競争は、経済主体の間での競争。つまり、現代では企業と企業の間での競争が進歩をもたらすと考える必要があります。

一方、組織のなかでは個人の間での競争が行われています。よりよい仕事を獲得するための職務獲得競争、昇進競争、昇格競争、賃金獲得競争などの競争です。これらの競争も個人にとってのインセンティブになるようです。競争に負けたくないから努力する。それは間違いないようです。

しかし、組織のなかでの競争が最も効率的な方法になるかと言えば、そうとも言えません。それは、努力を引き出すインセンティブなので、メンバーの意識は、より頑張ることに向かいがちです。その結果、見せかけの努力としての長時間労働や何回もの手直し作業に向かいがち。つまり効率が下がることもあるわけです。

このジレンマの解決策は、人としての自然な感情を大切にすること。つまり、職場でのお互いの気遣いや協力を大事にすることだと思います。仲間のためにまっとうな仕事を遂行する。競合企業に負けたくないよう、切磋琢磨する。そんな職場を作ること、難しいことではないと思います。

中嶋

【4】生き生き施設づくり(27)

【 ストレスチェック 】

初めて行ったストレスチェックの結果が出て、この施設でのストレス度は、高い順に、1) 残業時間や夜勤、2) 仕事で神経を使う、3) 体を酷使する、でした。順位ごとの、差はなくスタッフの6割前後がそこにストレスが「ある」と答えています。

一方で、ストレスへの対処面では、自分にストレスに対する抵抗力があると答えた人は2割に及びませんが、周囲のサポートがある(6割)し、上司のサポートもある(6割)ので、ストレスに対処できる(6割)という結果でした。

ストレス要因がなくなると考えるのは現実的ではありませんから、ストレスとうまくつきあう術を身に付けることも大事です。その問いに対して、スタッフの3分の2に近い層が、もともと自分はストレスに強いたちではないけれど、支えてくれるみんながいるからある程度は対処できるよ、と答えているのに、ここに戻って職場を作っていくことが本道だとの思いを強くしました。

また、ストレスチェックでの個人のストレス状況は、施設側には提供されませんから、あくまで平均値であり、個人ごとのストレス要因はさまざまです。ストレスチェックからはそこまでは見えてきません。スタッフの現場を回ってざっくりばらんにお茶しながら、話を聞く専従のベテランスタッフの配置も、施設長の目の届かないところを補う意味で検討を始めました。

パートナー・三宅敬司

【5】信頼のある職場(35)

【 年賀状 】

年の瀬は何かと気が急くものですが、筆者は年賀状が頭痛の種のひとつです。今年こそは早めに取りかかろうと思いつつも、郵便ポストに年賀状専用の差出窓口が設置されてからようやく着手し、大みそかぎりぎりまでかけてコツコツと、元旦に届けたい人とそうでもない人を区分しつつ、順番に書いていくのが通例です。

そうはいつでもいざ着手してしまえば、印刷文面の脇に短くても添え書きをしていくのは、（いつも会っている人は別ですが）ふだん会えない知人友人とは、やあこんにちは、いかがですか、と会話をしているようなおもむきの楽しい時間でもあります。ずらずらとその人に向けたメッセージを書ける人もいれば、筆が止まって結局のところ「今年はぜひお会いしたいです」と一文を添えてお茶をにごす人もいます。反省はそこ、です。

縁あって巡り合えた知人友人との関係は、生きていくうえで貴重なたからものですが、手入れを怠るといつの間にか形ばかりのものになってゆきます。会いたい人には会えるうちに会ってきちんと話をしておかなければ、時間は待ってくれないと、馬齢を重ねるたびにじわじわと増えていく訃報や喪中の挨拶はがきに接して、切に感じています。

今年の年賀状で「ぜひお会いしたい」と書く人には、社交辞令ではなく、本音で書いて、来年に足を運ぼうと考えています。

パートナー・三宅敬司

【6】少年硬式野球チームのコーチと目標管理(45)

【 明確な役割とボランティア 】

先日、とある保護者の方から相談があり、お母さん方の仲が少々ギスギスしており、お互いのコミュニケーションがうまく取れていないとのことだったので、次回の保護者が集まる総会で、改めてリトルリーグという組織と心構えについて私から伝えることで、意識を変えようという提案しました。

リトルリーグは、多くの保護者の皆様の協力により成り立っていると言っても過言ではないわけですが、毎週のようにグラウンドに足を運び、子ども達の飲み物のチェックや仮設トイレの掃除、グラウンド内のゴミ拾いなどを積極的に行い、試合の時にはアナウンス迄実施してくれるスーパーお母さんもいれば、たまにしか顔を出さずに子どもをグラウンドに送迎するだけのお母さんもいます。そのような一見不公平な状況に、不満を漏らすお母さんの声も理解はできますが、リトルリーグという組織はボランティアにより成り立っていることを忘れぬようにとのメッセージを伝えました。

リトルリーグは監督・コーチをはじめ、皆ボランティアであり、月謝を払って習いごとをしているわけではありません。そもそも、ボランティアとは大辞林によると、「自主的に社会事業などに参加し、無償の奉仕活動をする人」とあり、自主的でなければならず、しかも無償。

一方、知恵蔵2015によれば「子どもの教育分野でボランティアの義務化や入試の評価に加点することが唱えられ、その結果、義務的・功利的にとらえられることによってボランティアの本質をゆがめ、長期的に見ればその普及と活性を阻害すると危惧する議論もある」とも。

「自分はこんなにやっているんだから、他の人もやるべきだ！」一見正しいようだが、これはボランティアではない。自主的に行うのではなく無理やりやらされることになれば、ボランティアではなくなる。もっと言えば「自分はこんなにやっている」と思う本人も自主的に行っているようで、実のところ辛い思いをしながら、義務的に行っているのです。大切なことは何か？個々人が「自主的にやりたい」と感じる範囲を行い、お互いが声を掛けて「〇〇はやっておいたから」と共有するころではないか？結果として全ての「やらなければならないタスク」に漏れが生じることもあるのかもしれないが、その状態を見て、自らが自主的にやろうと考えてくれれば、是非やってくださいと・・・もし、そう思えないのであれば、無理をする

必要はない。自分にも他人にも無理強いをすることがボランティア精神を歪め、結果として組織全体が崩壊する危険すらあるということを伝えました。

もしもタスクに漏れが生じたときには、子ども達自らも自発的に行いますよ！と最後に付け加えました。保護者がなんでもかんでも、やらなくても・・・

明確な役割が無かったとしても、自主的に役割を見つけてコミュニケーションを充実させたら、無理強いしなくても、お互いが協力し、漏れの無い理想の組織になれるのかも？（理想論ですかね？）

イケメンコーチ

【7】中小企業とIoT

新聞や雑誌など多くのメディアでIoT（Internet of Things）という言葉が盛んに使われ、今やIoTがいろいろな産業分野で応用され始めている。IoTは大企業のスマート製造から一般家庭の家電の操作までいろいろな例があるが、我々中小製造業もよそごとと考えずに今のうちから、その動きに関心をもっておく必要がありそうだ。

中国も第13次五カ年計画で「中国製造2025」や「インターネット+」が強調され、「供給側改革」の施策が次々と打ち出されている。私のような古いタイプの間はなかなかITの進歩についていけないが、若い人達は顧客（自動車産業や事務機器産業等）の動きをしっかりと見ており、自社の工場のIoT化の可能性や顧客のラインからの要求に対応して生産ラインを素早く組み替えるシステムの開発など生産技術研究を始めている。

これからの生産技術者はITを使いこなすことが要求されます。技術者の皆様、ITを勉強しましょう。中国へ出向される方は、中国を侮ってはいけません。中国はIT大国です。

中国の多くの経営者は創造に関してはあまり関心がありません。しかし、システムや最新技術を買うことには熱心です。IoTやAIも一部の先進的な企業を除いて中国が先陣を切ることは少ないでしょうが、これら技術が買える段階になれば半歩遅れで確実に世界標準に追いつくでしょう。

順利包装集団 福喜多俊夫

【8】雀のえづけⅡ

ずっと試みてきた雀の餌付けですが、断念することにしました。いただいた餌台はそのまま置いていますが、餌遣りを中断しています。

その理由は、稗や粟は種子だからです。春から夏にかけて、雀が食い散らかし、地面に落ちた粟や稗が芽を出しました。一面の層になった状態ですから、出てくる芽の本数も半端ではありません。そのあたりは、他の雑草が生える余裕もなく、粟と稗だけになります。どちらもそれなりの大きさに育つ植物ですから、出てきた芽をずっと抜き続けました。その結果、しばし、餌遣りを休憩することにしたのでした。

冬に向かい、野鳥はメジロやジョウビタキがやってきます。雀も時々やってきます。メジロは雀よりも警戒心が弱いので、窓のそばまで寄ってきます。ミカンをぶら下げれば、メジロの餌付けは簡単にできるのですが、餌代が高くつくので、何か違う物でメジロを寄せたいと思い始めています。

中嶋

◆◇MBO(目標管理)実践支援センターの考え方

MBO(目標管理)実践支援センターはMBO(目標管理)を組織内で展開するためのノウハウを蓄積し、人事担当者に提供するためのセンターです。営利事業と非営利事業を組み合わせるこの機能をはたしていくつもりです。

<http://www.mbo-mcp.com/>



編集・発行／MBO(目標管理)実践支援センター
代表／中嶋哲夫 <http://www.mbo-mcp.com/>
事務局／(株)MC&P TEL:06-4706-3311

- 最後までお読みいただきましてありがとうございます。
このメールマガジンは、センターの講師陣が出会った方々に感謝の気持ちを込めて送らせていただいています。
もし、ご関心のない場合には、ご面倒ですが解除の手続きをお願い申し上げます。
- このメルマガを読んでもらいたいお知り合いを是非ご紹介ください。
- 投稿または配信停止を希望される場合は、
下記「お問い合わせフォーム」にて、
「MBO投稿」または「MBOメルマガ配信停止希望」とご記入の上、送信願います。
<https://secure.mcp.co.jp/contact.html>
- このメールアドレスは配信専用となっております。
返信いただいても対応はいたしかねますのでご了承ください。
ご連絡は下記のアドレスまでお願いいたします。
mbodoor@mbo.mcp.co.jp

※本メールの無断転載・複製を禁じます。